

歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

甲弩の宮山にある甲弩神社は、古くは甲弩郷（古代には笠岡市北部をこう呼んだ）の郷社であったと伝えられています。明治以前は良宮などの名で呼ばれていました。

その拜殿は、笠岡市内で最古の拜殿建築といわれています。といっても、備中松山藩主「池田出雲守（長常）」時代の寛永十四年（一六三七）付け棟札と、代官「万年七郎衛門」時代の宝永七年（一七一〇）付け棟札が残っており、正確な建築年代については意見が分かれていました。今年に入って屋根瓦の葺き替え工事を行ったところ、屋根の内部で「宝永七年」付けの墨書が見つかり、現在の拜殿の建築年代が後者であったことが分かりました。建てた大工は塩田長衛門安次と書かれています。

甲弩神社には、ほかにも多数の棟札が保存されており、神社の歴史を知るうえで、貴重な資料となっています。なお、神社周辺の山林は、ヒノキやスギの原木が茂るなど、叢（神社の森）としての風格を備えており、岡山県自然保護条例にもとづく郷土自然保護地域（笠岡市内で唯一）として指定されています。



この 甲弩神社の拜殿

【市指定重要文化財（建造物）】

展覧会と行事のご案内

開館25周年記念

詩心 竹喬
—竹喬美術館珠玉の数々から

開館25周年記念 無料開館期間

10月13日(土)～21日(日)
入館無料です。お誘いあわせの上ご来館下さい。
開館時間9時30分～17時
(ただし入館は16時30分まで)

〒714-0087
笠岡市六番町1-17
☎63-3967
ホームページ
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

「美が無心のうちに生れるということ、それを具体的に説明することは出来ないけれども、何となく感じの上で、そうありたいと希うのである。作品の上に無欲を感じ、純粹素朴な人間性を感じるとしたら、それは上々のものである筈である。・・・スケッチの時に出来る線は、私は私なりに美しいと思うのだけれども、それはやはり無心のうちに、自然と取り組んでいる心境の無のうちにあるようである。」
(竹喬のことば)

竹喬の描きだす自然美の中では、良く描こうとする意欲すら表立つと不要な欲に見えてしまうのかもしれない。無心になつて対象に向かつて筆を動かす、そこに自然とあらわれる美は、作者の人間性に根ざしたものだといえるだろう。



竹喬美術館の光彩 57

夕照

小野竹喬 作
昭和37(1962)年
27.6×43.1cm

今月の表紙

市の重要無形民俗文化財に指定されている神島の「天神祭」が9月16日に行われました。

大漁旗で飾られた船で千歳楽が運ばれる「御渡り」。時折激しく降る雨の中、千歳楽を「チョーサジャ」のかけ声とともに陸揚げする様は勇壮で見ると圧迫します。

最後は、すべての千歳楽が勢揃いして境内を練り歩く「総担ぎ」で会場の熱気は最高潮を迎えました。

係から

保育園に子どもを迎えに行くと、のぼり棒を登って見せてくれたり、鉄棒で逆上がりをしてくれます。毎日一緒に成長ぶりに驚かされます。今月は保育園の運動会があります。毎日一生懸命練習を楽しんでいます。(土)



土屋武之

笠原良一

発行日／平成19年10月1日
発行／笠岡市役所
編集／企画政策課
〒714-8601 笠岡市中央町1-1
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111

笠岡市ホームページ：<http://www.city.kasaoka.okayama.jp>
メールアドレス：kouhou@city.kasaoka.okayama.jp



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。

100 古紙配合率100%の再生紙を使用しています